

# 連携ニュース てんじん

独立行政法人  
国立病院機構 甲府病院  
（山梨県甲府市東馬場三丁目三十三番地）  
発行責任者  
院長 長沼博文

2006年4月1日発行  
第4号

<http://www.hosp.go.jp/kofu/>



## 新年度を迎えて

看護部長 羽生 美恵

「富士の国やまなし」も市町村の統廃合が進み激動の時代を迎えています。当院も統合した病院として、職員一丸となり努力しているところです。

今年もまた新年度にあたり多くの別れと出会いがありました。別れは寂しく思いますが新たな旅立ちであることを祝福し、また今までのことに感謝して送りだしたいと思えます。新しい出会いにはこれから宜しくという気持ちと新しい環境に早く慣れて頂けるようにと願います。この時期は自分自身を振り返る

機会となり緊張と新たな気持ちで新年度を迎えました。

当院の職員も人事異動により大きく変わりました。期待と不安いっぱいの新採用者も甲府病院に迎え、新しい風がふき始めています。私たちは「甲府病院で働くことが出来て良かった」と安心してもらえるよう気持ちと安心してお迎えしました。

一緒に働く職員の満足感が高く、地域の方、患者さまにも満足される病院となるようにしたいと思っております。その為には、良い人間関係が出来てはじ

めて良い仕事や環境が出来ると考えています。気持ち良い挨拶から始めたいものです。特に朝の挨拶を「自分から明るく元気」にしましょう。これは自分にも、相手にも「快」の刺激になることでありとても大切だと思っています。

医療の高度化、患者さまのニーズの多様化に伴い看護の業務はますます拡大するとともにより質の高い看護が求められています。専門職として常に看護の本質を追求し、自己研鑽し、看護の視点を大事にしていきたいと思えます。「看護とは、生命体にとってプラスになるような援助、もてる力を活用し、高めようとする援助、生命力の消耗を最小にするような援助、生命力の幅を広げていくような援助、回復過程を促進するような援助」です。

相手にいやな思いをさせないからこのようなことにはなりません。身だしなみや挨拶は人間関係やその仕事をスムーズにするためになくてはならないことだと思えます。院内では患者さま

まをはじめさまさまな人たちが出入りしています。職員は軽く会釈をし、身だしなみ、言葉遣いなど心のこもった対応を大切にしていきましょう。

何時でも、何処でも、患者さま、ご家族、ボランティアのかたに、地域の皆様、また職員に選ばれるような病院であるよう努力をしていきたいと思えます。皆様に力を貸して頂きますようお願い致します。看護部はもとより病院についてのご意見がありましたら何時でもお申し出下さいますことを宜しくお願い致します。





診療科案内

## 外科紹介

外科医長 鈴木 哲也

当院外科は、これまで消化器科との連携を図り消化器疾患から乳腺、甲状腺、ヘルニア等の一般外科に至る幅広い分野を網羅し成果を上げて参りました。この四月から山梨大学医学部との連携をより強化し、より高度な医療をいち早く提供できるようと考えております。具体的には連日各分野に精通した医師の派遣を得て、最新の情報に基づく医療の提供に努めて参ります。また私は現在も週に一度山

梨大学医学部附属病院において肝胆臓を主とした外来を行なっておりますが、当院においてもその経験を生かし山梨県に多いとされている肝炎、肝癌や脾臓癌、胆管痛などの特殊な治療を要求される疾患に対しても全国トップレベルの医療を提供できるように体制を整えております。

一方でこの春当院では最新式のCTを導入いたしました。これにより今まで以上に早期に異常を発見し治

療に結びつけることが可能になります。MRIでは胆

膵系の疾患をより低侵襲に診断できるMRCPをいち早く導入、さらにSPIO

MRI等の応用により肝腫瘍の診断治療に効果を上げております。また特筆すべきはRI検査が可能な施設であることであり、今後各痛治療の分野でその成果が期待されているセンチネ

ルリンバ節療法への応用も検討中であります。

このような高度な医療を提供する一方で、内視鏡的胃瘻造設術や、より低侵襲な中心静脈ポート造設術を行い、昨今その重要性が再認識されて来ている栄養療法、緩和ケアへの外科的手技の応用を積極的に行っております。

ソフト面でもハード面でもその充実ぶりには目を見張るものがあり、今後皆様の健康のためにお役に立てる事を楽しみにすると同時に、満足していただける医療を提供できるよう努力していきたいと考えております。





## 病棟紹介

# 4病棟

看護師長 西 純子

春暖うらかな季節の訪れとなりました。新病棟に移転し4病棟が開設されてから、今年の三月で四年目を迎えます

4病棟は内科系混合病棟として内科、消化器科を中心に、小児科の入院に対しても柔軟に病床を運用し治療・看護をおこなっています。

病床数は五十床です。混合病棟ですので、内科系・外科系の各科の医師が協力し合い、内科は主治医を中心に、消化器科はチーム全体で治療に当たっています。緊急入院される場合が多い病棟ですので、急性期は救命を第一にとらえ、循環

や呼吸に対する治療・看護、必要なモニタリング等を速やかに提供できるよう重症個室六室が備わっています。

甲府地区の小児二次救急が平成十七年三月より開始されてからは、小児救急の受け入れに対し積極的に取り組んでいます。

ご高齢の患者様に対しては、合併症の予防を行い、患者様・ご家族の参画を図りながら、医療連携室、地域と連携を保ち入院時より早期に退院ができるよう、治療・看護の継続に向けての働きかけを行なっています。

糖尿病・高血圧などの生活習慣病に対する治療にお

いては、専門医による治療や生活指導・服薬指導・栄養指導が行われています。又、がん化学療法では、安全に治療ができ患者のQOL向上を目指したケアが実践できると取り組んでおります。

このように、成人や老人の患者様と生活リズムの異なる小児の患者様に対しそれぞれの特殊性に配慮しつつ、混合病棟として幅広い治療・看護に対応出来るよう努めています。

4病棟の朝は、「今日も一日がんばって、安全で安心な看護を提供しましょう」という気持ちから、看護スタッフ全員でのかけ声にはじまります。「それでは皆さん」の声とともに「目で確認・指差し確認・声だし確認」と医療事故防止の

ローガンを元気よく声を合わせて言います。看護スタッフは明るさと優しさもち患者さまに「私の看護師さん」と信頼されるよう心がけています。

四階の食堂・談話室から眺める山々や甲府市内の夜景はすばらしく、幅広い年齢の方々が入院され、互いに励まし合い療養される暖かさが感じられる病棟です。



## 外 来 診 療 担 当 表

平成18年4月1日現在		月	火	水	木	金
内 科	1	渡 邊	川 口	渡 邊	渡 邊	渡 邊
	2	黒 澤	黒 澤	黒 澤	川 口	黒 澤
	3	川 口	尾 畑	高 木	中 尾	高 木
	4	高 崎	高 崎		高 崎	
	5				前 田	
脳神経外科	5		長 沼			長 沼
特 殊 外 来 <small>午後2:00-</small>		高 木		高 崎		高 崎
神 経 科			平 野・塩 江			
消 化 器 科		河 口	角 田			河 口
小 児 科	1	久 富	稲 見	久 富	久 富	稲 見
	2	島 村	鈴 木	宗 像	島 村	鈴 木
	3	畠 山	中 根	中 村	畠 山	神 谷
	3	中 村	畠 山	神 谷		中 根
外 科		鈴 木		角 田	鈴 木	角 田
整 形 外 科	1	萩 野	原 田	原 田	萩 野	萩 野
	2	原 田	落 合	落 合	落 合	原 田
泌 尿 器 科		相 川	川 口	相 川	相 川	相 川
産 婦 人 科	1	深 田	深 田	高 木	深 田	深 田
	2	伊 東	高 木	伊 東	伊 東	高 木
眼 科		古 市	古 市	古 市	手 術 日	古 市
耳 鼻 咽 喉 科					矢 崎	

※乳児健診(小児科) 毎週 火・木曜日 (完全予約制)  
 ※予防接種(小児科) 毎週 水曜日 (完全予約制)  
 ※人間ドック 毎週 月・水・金 (完全予約制)  
 ※脳ドック 毎週 火・金 (完全予約制)

※高齢者検診 毎週 火・木 (完全予約制)  
 ※結核検診 毎週 月・水・金 14時から16時  
 ※毎月第4金曜日 黒澤医師 糖尿病教室

### 編集後記

いよいよ春本番という季節  
 になって参りました。

春といえば卒業、入学のシ  
 ーズでもあります。以前、  
 当院にも看護学校がありまし  
 た。

その校歌に「若き日のいの  
 ちのいずみ」という一節があ  
 ります。

「将来への無限大な可能性」を  
 秘めた若人たち。

今年も、希望に胸を膨らま  
 せた新人たちがやって来ます。  
 我々も、彼らに負けないよ  
 う改めて気持ちを引締めて頑  
 張りましょう。



医療連携室直通電話

TEL 055-240-6223  
 FAX 055-240-6225